



# 学校だより SEIDO

令和7年3月17日18号  
芦屋市立精道中学校

～ 一人を大事に 一秒を大事に ～

私たちの代から様々な行事がコロナ禍以前の形に戻った。規制が減り、自由が増えた分、一人ひとりの行動に責任が求められるようになった。褒められたこと、叱られたこと、様々な出来事を通して私たちは大きく成長することができた。

委員会では、時に放課後、時に朝早くに集まることがあった。正直たまにしんどかった。クラスに想いが伝わらず、逃げ出したくなる時もあったし、重い責任に押し潰されそうになることもあった。それでも、周りの友からの「応援してるよ」「ありがとう」そんな言葉に救われた。同じ委員会の仲間とアイデアを出し合い、行事を成功させた時は嬉しかった。(中略)

休み時間に先生と話す時間が大好きだった。苦手だった教科も楽しい授業のおかげで少しだけ克服できた。授業の中で見つけた疑問を先生と一緒に解き明かすのが楽しかった。グループワークやペアワークを通して自分の意見をもち、他人に伝える大切さなど、勉強以外にも学ぶことができた。なかなか目に見えた結果が得られず、しんどいと感じることがたくさんあった。自分が変わらなければならないと分かっているにもかかわらず、なかなか勉強する気がおきず、後悔してばかりだった。「あのときちゃんと勉強していれば」「あのとき逃げていなければ」と何度も自分を責めた。みんなと自分を比べ、どんどん開いていく実力の差と、もう追いつけないかもしれないという不安が募った。それでも友達と話して不安を共有することでまた頑張ろうと思うことができた。高め合うことができた。自分をほめたいと思えるようになった。



(77回生答辞より抜粋)

77回生の門出を見送りました。おめでとうございます。77回生らしい素晴らしい卒業式でした。

前日(13日)の予行練習でも在校生に堂々とした姿を見せてくれました。在校生である1,2年生も様々な形で当日までの準備、在校生合唱などありがとうございました。先輩を思う気持ちが伝わってきました。成長していると感じます。それぞれ「ものづくり体験」「京都への校外学習」を自分たちで成し遂げた成果も大きいのではないのでしょうか。「これなら先輩からの引継ぎも大丈夫」と確信しました。78回生、79回生これからもよろしくお願いします。

3年生の5月に九州方面に修学旅行に行きました。私は4月に転勤してきたばかりでしたので、77回生がどのように修学旅行への取り組みを行ってきたのかが十分に分かっていませんでした。分からないということは不安を伴います。私はほんの少し修学旅行に「不安」をもっていました。しかし、当日の朝、グラウンドに77回生が集合した瞬間に「不安」は「期待」に変わりました。

その理由は、話を聴く。時間を守る。240名を超える集団がこの2つが見事にできていたからです。

皆さんにとっては、当然のことだったかもしれませんが、しかし、これだけの人数があまりにもスムーズにやりきっていることに感動しました。

実行委員が前に立てば自然に静かになり、呼びかけやルール説明には全員が協力しようとする姿勢がある。それは、その朝に限らず、駅、バスや新幹線の中、ホテル、民家…そして、その後の学校生活でも幾度となく同じ感動をもらいました。

あるクラスの終礼にお邪魔したことがありました。小さな決め事をする場面でしたが、なかまが発言する時にはクラス全員が耳を傾けていました。担任の先生が「なるほど、いい意見だね」と声をかけると、自然と拍手がおこりました。

このように、77回生にはいつもなかまを受け止めることが当たり前としてありました。また、心配りができる人がなんと多いことか。規律ある中にも、お互いを尊重する、その中でなかまづくりをしてきたことがよくわかります。ここまでつくりあげるには、いくつもの失敗や何度もやり直す苦労があったかもしれませんが、それでもこの素晴らしい当たり前をつくりあげたのは、誰でもなく77回生のみなさんです。このなかまはみなさんにとって宝物だと私は思います。

(式辞より抜粋)

- \*精道中の東側(大東町)で施設工事が始まっています。通学路に利用している人は注意してください。
- \*学校にお礼の電話が入りました。伊勢町で体調の悪くなられた方を登校中の生徒(男女複数名)が救急車までサポートしたとのこと。大変感謝されています。精中生ありがとうございます。